

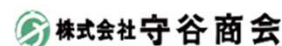
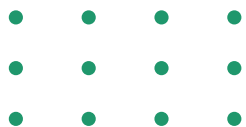
長野地域脱炭素実現推進協議会事務局長 宮下秀樹

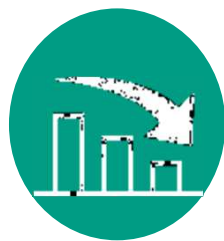
[長野市発 民間企業主導アライアンス]
長野市地域脱炭素実現推進協議会
会員企業 募集！

脱炭素、御社の思いを、地域の思いを、形に…

アライアンスが目指すもの
Goals of the project

地域脱炭素推進による
企業価値の向上 & 長野市の地域の価値向上





CO2排出量可視化

具体的なCO2削減方法の選択を増やすため情報、長野地域由来のエネルギーに関する情報、脱炭素経営に取り組む企業・団体との連携。



企業価値向上

本協議会での活動を通じて、脱炭素経営推進の発信が可能。2024年度は具体的な採用活動につなげるための人事、採用担当者向けのセミナーを実施。



GXエンゲージメント

「長野地域脱炭素推進BOARD」とのGX対話（エンゲージメント）によるコンサルティングを個別に行います。事業規模にかかわらず、様々なソリューションの情報提供が可能。

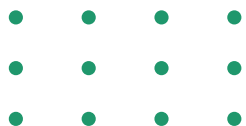
長野市 環境部による
CO2排出量可視化クラウドサービス
利用における補助金の利用

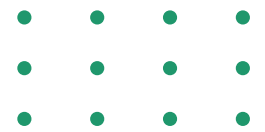
「イノベーション創出」を見据えた
ゼロカーボン・脱炭素のみをゴールとしない
取り組みにより、採用活動等への好影響
に繋がっていきます

令和5年度はNASC（長野スマートシティコミッション）の事業採択を受け活動

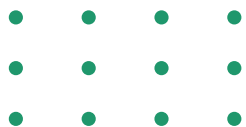
令和6年度は環境省事業

「地域ぐるみでの脱炭素経営体制構築モデル事業」に採択され活動



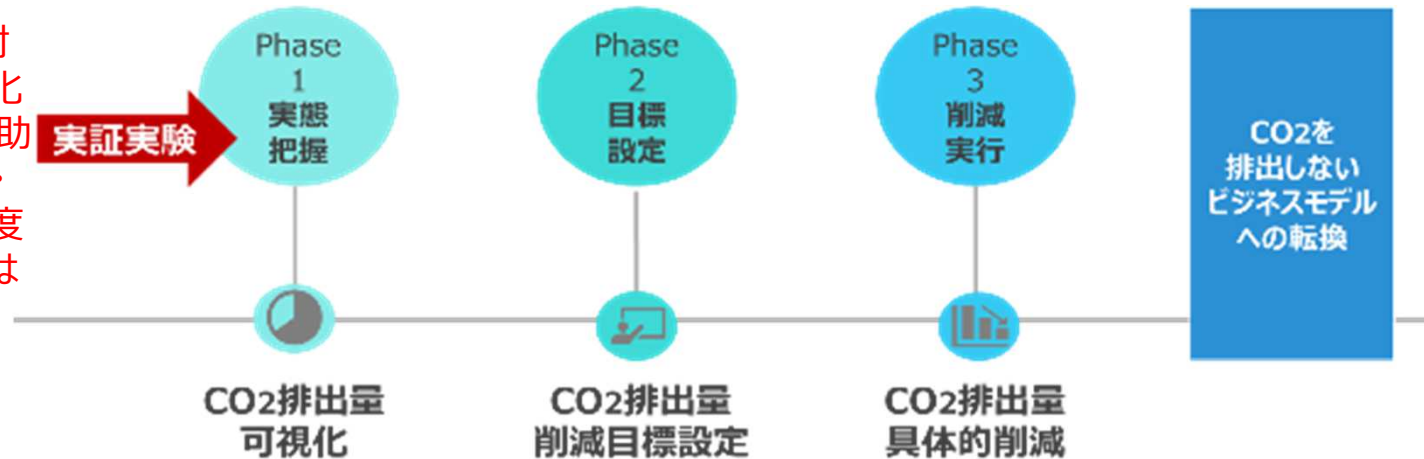


協議会の組織体制

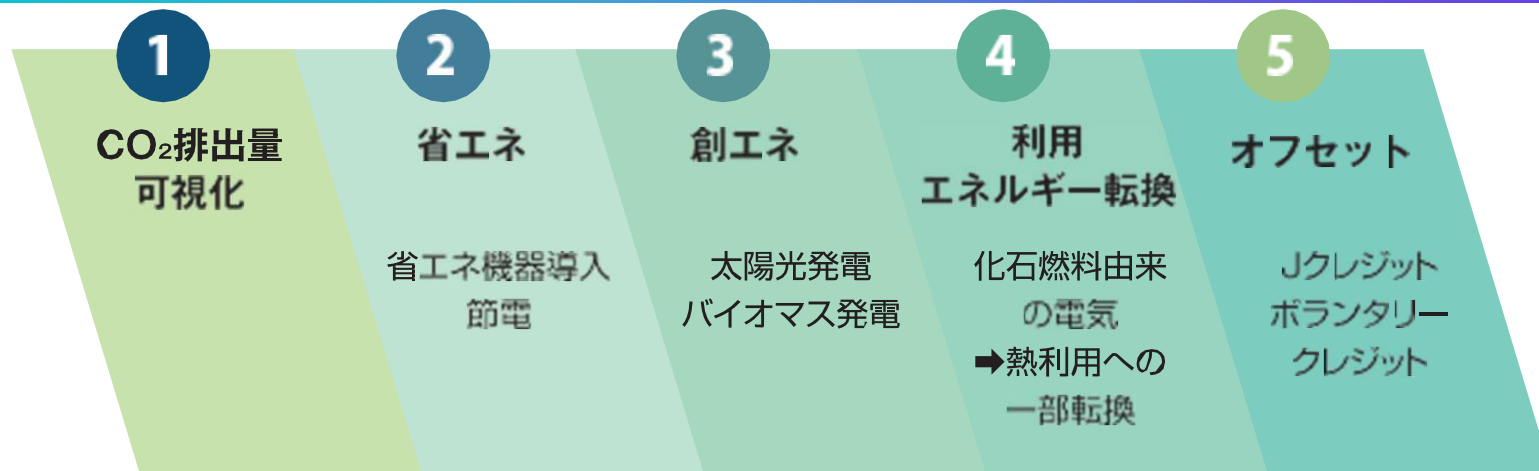


(1) なぜ、「CO2排出量の見える化」が必要なのか？

協議会会員企業対象に排出量見える化費用を長野市が補助金を支給 初年度・次年度1/2、次年度1/3、令和6年度は19社が実施



(2) 「ゼロカーボン」実現に至る具体的ステップ



省エネ、創エネ設備の更新を協議会が支援！

➤令和6年度の活動

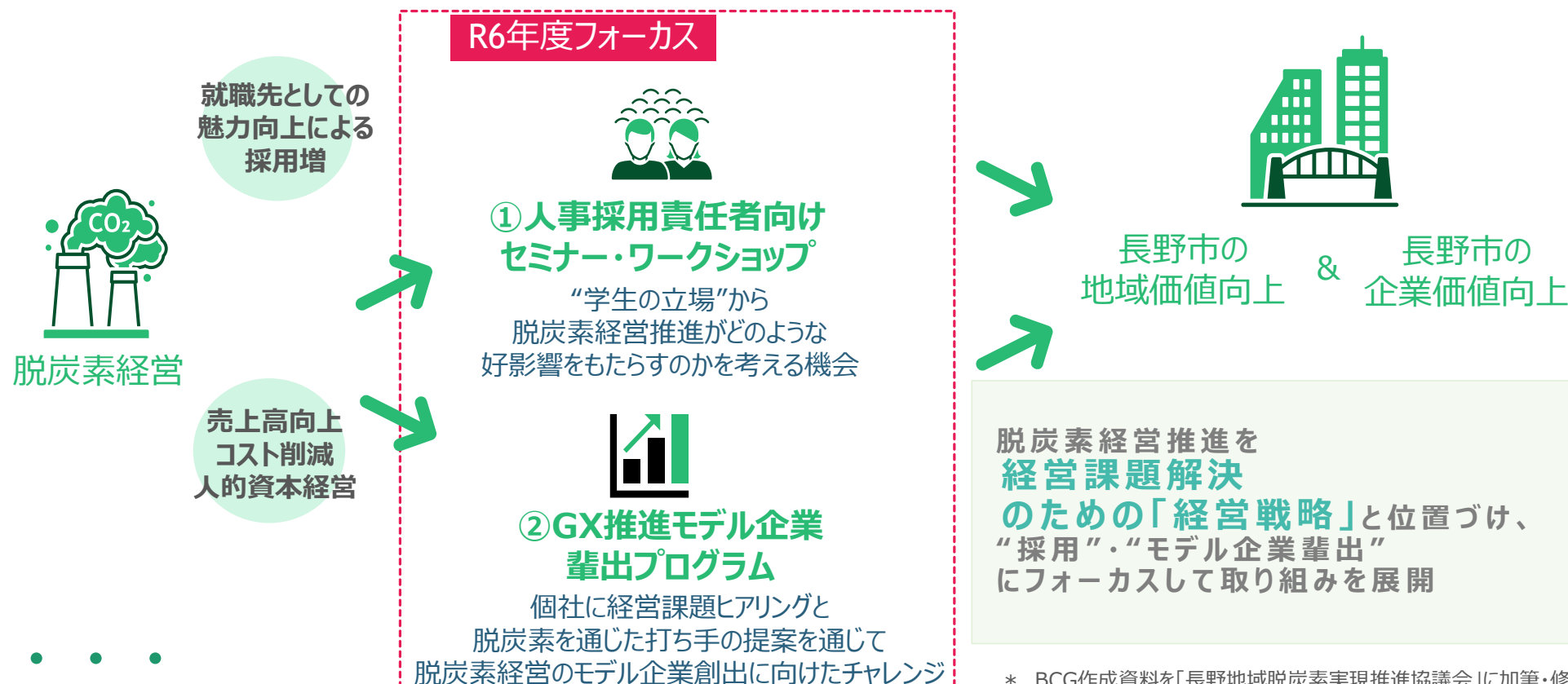
環境省事業「令和6年地域ぐるみでの脱炭素経営体制構築モデル事業」に
全国10都市の一員として採択され1年間の活動で次のプログラムを実施した

- ① 人事・採用責任者向け脱炭素経営セミナー・ワークショップ
- ② GX推進モデル企業輩出プログラム
- ③ CO2排出量削減ソリューション保有企業のシーズの見える化と一覧化

具体的な
企業価値向上 

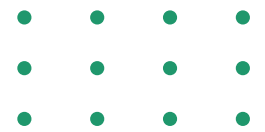
2つの
重点取組専門プログラム 

最終的なゴール 



* BCG作成資料を「長野地域脱炭素実現推進協議会」に加筆・修正

2025.8.20脱炭素経営支援セミナー



経営戦略として「脱炭素推進」が採用にもたらす好影響

企業価値向上セミナー・ワークショップ

人事・採用部門/責任者限定 専門プログラム

経営戦略としての「脱炭素推進」が採用に好影響をもたらす企業価値向上セミナー・ワークショップ

採用活動に好影響をもたらすために「3回」のセミナー・ワークショップにて実践的な脱炭素経営採用をお伝え致します

Day1	Day2	Day3
カーボンニュートラルの基本を学ぶ	学生の「教育」「価値観」を知る	自社の強みを採用活動に繋げる
✓ 脱炭素経営の重要性 ✓ 脱炭素経営推進による採用好事例企業紹介 ✓ 自社に脱炭素貢献のソリューションがなくても脱炭素貢献が可能なサーキュラーエコノミー	✓ 現代の学生が考える「良い企業」「良い地域」 ✓ 「学生」から学ぶゼロカーボン・地域貢献 ✓ 「先生」から学ぶゼロカーボン・地域貢献	✓ 学生と共に考える「魅力的な企業」の発信方法 ✓ 学生とともに考える「新規事業の可能性」 ✓ 脱炭素経営をベースとした採用活動・採用計画へのヒント

日時

10月22日(火) 14:00~16:30	11月11日(火) 14:00~16:30	12月3日(火) 14:00~16:30
--------------------------	--------------------------	-------------------------

場所 長野市芸術館3Fアクトスペース

主催 : 長野市 ・ 長野地域脱炭素実現推進協議会

学生が考える「良い企業」「良い地域」を通じて
“教育”“価値観”を知ることで
脱炭素経営推進による **採用力強化** を考える機会としました。

内容

登壇者・主な参加者

Day1

- カーボンニュートラルの基礎
- 脱炭素経営を採用に結び付けている企業の実例

- 協議会・BCG
- 雲南市・雪ヶ谷化学工業

Day2

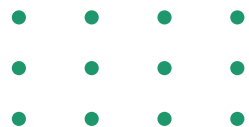
- 学生アンケートの紹介
- 「脱炭素」×「就職先」テーマでのパネルディスカッション

- BCG
- 大学生（信州大学、長野県立大学、東京大学院）
- 信州大学 教授

Day3

- 「脱炭素」×「発信」をテーマとした採用責任者と学生とのグループディスカッション

- 大学生（信州大学、長野県立大学、長野高専）





GX推進モデル企業輩出プログラム

GX推進モデル企業輩出プログラム

長野市地域ぐるみ脱炭素化に向けて
「GX推進モデル企業」を募集します

背景

長野市は、環境省の「地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業」の1つに選定されました。
(参考：環境省報道発表 https://www.env.go.jp/press/press_03374.html)
これにより環境省及び委託事業者のボストンコンサルティンググループの助言・支援を受けながら、下記の通り長野地域脱炭素実現推進協議会の会員を対象とした事業が可能となりました。
地域ぐるみでの脱炭素推進のためには、事業規模に関係なく「モデル企業」の輩出が不可欠です。
本事業実施にあたり、「経営戦略としての経営課題解決のための脱炭素化」および「事業活動の脱炭素化」の実現に向けた「GX推進モデル企業」を募集いたします。

プログラム概要

個別支援前に経営課題解決のための脱炭素経営「オンライン集合研修」を行います。
以下の3つをポイントに「GX推進モデル企業創出」に向けた支援を行います。
また「事業活動の脱炭素化」のための「カーボンニュートラル実現計画」を策定致します

脱炭素を通じた経営課題
解決の方向性の明確化

具体的なCO2排出量
削減の方法の明確化

排出量削減実績 &
取組発信による
独自価値創出



出典：カーボンニュートラルと地域企業への対応・事業環境の変化と取組の方向性＞令和5年12月 関東経済産業局 より長野地域脱炭素実現推進協議会で登録・「熱利用への一部転換」を追加
https://www.kanto.meti.go.jp/kenkyu/ene_koho/ondanka/data/kanton/guidance.pdf

長野地域脱炭素実現推進協議会

5社がGX推進モデル企業輩出プログラムにエントリー。
広告業が複数社エントリーされている点に特徴あり。

- ・「建設業」(1社)
- ・「空調設備販売業」(1社)
- ・「小型EVモビリティ販売業(1社)」
- ・「広告業」(2社)

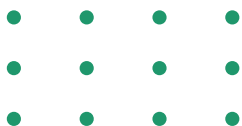
脱炭素を通じた
経営課題解決の
方向性の明確化



具体的なCO2排出量
削減の方法の明確化



排出量削減実績 &
取組発信による
独自価値創出





➤今後の展望

本年度モデル企業を起点に、長野市内でGXの循環を創出
「地域ぐるみでの脱炭素経営構築モデル事業」を発展的に拡大させていく

脱炭素を通じた価値を生み出す



製造部門・業務部門

- 環境配慮型の製品・サービスへの注力
- GXとDXの融合で実現する脱炭素
- 活動拠点である建物のゼロカーボン化による付加価値向上を図る

建物の価値向上
に貢献



建設業

- 脱炭素による建物の付加価値向上を図る

脱炭素を通じた価値を発信する



メディア・広告業界

- 製造部門や業務部門の脱炭素による付加価値を世の中に伝える
- 脱炭素による企業価値を採用市場に知らせ、長野市の就労人口増加・魅力的な街づくりの発信に貢献



- 長野市の就労人口増加
- 魅力的な街としての発信



行政

- 環境・産業振興の両面から市内企業の循環をサポート
- 長野市として都市ブランディング推進



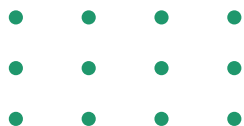
長野地域脱炭素実現推進協議会

- 横連携支援
- 脱炭素の方向性の個社アドバイス

脱炭素の価値を世の中・採用市場に伝える

都市ブランディング

* BCG作成資料を「長野地域脱炭素実現推進協議会」にて加筆・修正





なぜ私達は脱炭素に取り組むのか

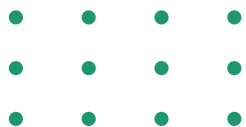
現在、社会課題が複雑・多岐に及ぶ中で、社会全体が課題解決に向かった模索が続いているといえる状況にあると思います。SDGsに準拠した持続可能な経営体制構築も優先されるべき社会課題であると思います。

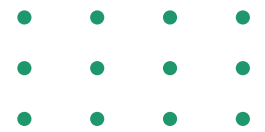
この取り組むべき社会課題の中でも全地球上の全生命にリスクが及ぶ地球温暖化に関する温室効果ガス問題は、全ての人々が全ての行動・活動の中で対処して行かなければならない社会課題であります。

つまり大きな企業も、小さな企業も、製造部門も、業務部門も、グローバルな企業も、ローカルな企業も、背負うものは同じであるといえます。

業種・業態、事業形態の違いに応じた様々な対応がり、これを成し得るか否かが、組織に求められた命題となります。

全地球的なグローバルな問題に対し、中小・非グローバルな企業ができることは、あまりに小さく限定的であるため、個社の達成感が小さく、「我がごと」と捉え難い状況にあるのも事実です。これを「集合の力」で課題解決しようとするものが「地域ぐるみでの脱炭素実現」ということになると私たちは考えています。



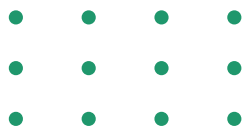


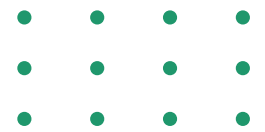
GHGプロトコルがサプライチェーンを対象としたスコープを設定しているのは、企業活動における温室効果ガス排出量をより包括的に把握し、効果的な削減対策を講じるためです。単に自社の直接排出量（Scope1）や Scope2（電力など外部からの購入エネルギーの排出量）だけでなく、サプライチェーン全体（Scope3）の排出量を把握することで、より広範囲な排出削減の機会を特定し、企業の持続可能性を高めることを目的としています。



地域ぐるみでの脱炭素実現では、サプライチェーン全体（Scope3）の排出量を把握のみならず、地域全体（仮にScope 5とします）での排出量の把握が必要と考えます。

長野地域からCO2がどのくらい排出されているのか。今後どのくらい削減できるのか。
これが長野地域の価値向上につながる。

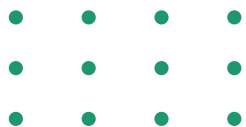


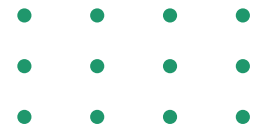


CO₂ 排出量見える化に取り組む協議会会員の皆様をお願いしたいこと
それは、CO₂排出量データの共有です

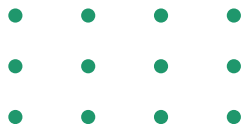
R 5 年度にデータ共有をいただきました参加者のCO₂排出量データを以下に示します

利用者名	業種	クラウド集積値 t・CO ₂			従業員数 人	②CO ₂ 排出量原単位 t・CO ₂ /人		
		Scope1	Scope2	全排出量		Scope1	Scope2	全排出量
A1	建設業	12	128	140	53	0.23	2.42	2.64
A2	建設業	42	13	55	126	0.33	0.10	0.44
A5	建設業	477	174	651	210	2.27	0.83	3.10
A12	建設業	11	3	14	7	1.57	0.43	2.00
B2	建設業	55	12	67	40	1.36	0.31	1.67
B4	建設業	400	84	483	44	9.08	1.90	10.99
B5	建設業	53	106	159	123	0.43	0.86	1.29
B11	建設業	291	17	308	45	6.48	0.37	6.85
建設業平均		167.6	67.0	235	81.0	2.72	0.90	3.62
排出量比率		71.4%	28.6%			0.75	0.25	
A3	運輸交通	2,343	54	2,397	92	25.47	0.59	26.05
A8	運輸交通	16	3,733	3,749	180	0.09	20.74	20.83
A9	運輸交通	2,484	0	2,484	130	19.11	0.00	19.11
A10	運輸交通	102	15	117	21	4.86	0.71	5.57
運輸交通平均		1236	951	2,187	106	12.38	5.51	17.89
排出量比率		56.5%	43.5%			0.69	0.31	





利用者名	業種	クラウド集積値 t・CO2			従業員数 人	②CO2排出量原単位 t・CO2/人		
		Scope1	Scope2	全排出量		Scope1	Scope2	全排出量
利用者名	業種	クラウド集積値 t・CO2			従業員数 人	②CO2排出量原単位 t・CO2/人		
		Scope1	Scope2	全排出量		Scope1	Scope2	全排出量
A6	製造業	30	123	153	75	0.4	1.6	2.04
A7	製造業	3,258	4,354	7,612	214	15.2	20.3	35.57
製造業平均		1,644	2,239	3,883	18.81	7.81	10.99	18.81
排出量比率		42.3%	57.7%			0.42	0.58	
A4	業務その他	104	3,258	3,362	627	0.17	5.20	5.36
A11	業務その他	815	1,184	2,000	450	1.8	2.6	4.44
B1	業務その他	0	21	21	83	0.0	0.3	0.25
B3	業務その他	13	10	23	37	0.4	0.3	0.62
B6	業務その他	0	198	198	130	0.0	1.5	1.52
B7	業務その他	920	2,755	3,674	863	1.1	3.2	4.26
B8	業務その他	110	804	914	91	1.2	8.8	10.04
B9	業務その他	88	23	111	259	0.3	0.1	0.43
B10	業務その他	39	23	62	21	1.9	1.1	2.96
業務その他平均		232	919	1,152	285	0.76	2.56	3.32
排出量比率		20.2%	79.8%			0.23	0.77	





これらのCO2排出量原単位を使用して長野市域由来のCO2排出量を予測したのが以下の表です

部 門	業 種	自治体排出量カルテ・ベース			有効 サンプル数 個	クラウド見える化・ベース			推定CO2排出量 千t・CO2			比率 ④／①	排出源由来比率	
		①CO2排出量	就業人口	基準原単位		Scope1	Scope2	全排出量	②Scope1	③Scope2	④全排出量		Scope1	Scope2
		千t・CO2	人	t・CO2/人		t・CO2/人	t・CO2/人	t・CO2/人	千t・CO2	千t・CO2	千t・CO2		②／④	③／④
産業部門	建設業	31	14,434	2.148	8	2.72	0.90	3.62	39.3	13.0	52.3	168.6%	75.1%	24.9%
	製造業	233	22,232	10.480	2	7.81	10.99	18.81	173.7	244.4	418.1	179.4%	41.5%	58.5%
業務その他		534	139,380	3.831	9	0.76	2.56	3.32	105.5	357.5	462.9	86.7%	22.8%	77.2%
運輸部門（貨物/鉄道）		314	10,116	31.040	4	12.4	5.5	17.89	125.2	55.7	181.0	57.6%	69.2%	30.8%
合 計		1,112.0	186,162		23				443.7	670.6	1,114.3	100.2%	39.8%	60.2%

- I. サンプル数23団体で集積されたCO2排出量（令和5年度分）より推定した長野市全体の排出量（家庭部門を除く）は、自治体排出量カルテ（2020年）で示された排出量1,112千 t・CO2と比較して0.2%増の結果を得た。
- II. 現時点で、この値の多寡を問題とすることは無意味であり、サンプル数の拡大、入力データの信頼性向上、拠点別就業人員把握の精度向上することで、長野市域から排出されるCO2の総量をモニターすることが肝要である。
- III. 自治体排出量カルテ等の既存のデータベースではわからない、排出源別CO2排出量の実態を示すことができる。

カテゴリ—Scope 1とScope 2の排出量比率は、40：60の関係にある。

その比は、建設部門で75：25、製造部門で42：58、業務その他部門23：77、運輸部門で69：31

今後さらに、データの蓄積が進むと、Scope 1の内訳（ガソリン由来、都市ガス由来、重油由来等）が明瞭となり、環境施策に反映させることができる。

最も重要な事は、これを継続的に把握して、排出量の削減に資する行政の環境施策に反映させることである。

CO2排出量データの地域内共有に、ご理解と、ご協力をお願いいたします

